國學院大學学術情報リポジトリ

卯月八日の死者供養：兵庫県周辺地域を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 新之輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001497

卯月八日の死者供養
—兵庫県周辺地域を中心に

伊　藤　新之輔

論　文　要　旨

本稿では、加西市坂本町での伝承と兵庫県周辺地域の民俗事象182例から、卯月八日に行われる死者供養と竿花について伝承の内容と分布を整理した。

卯月八日の死者供養には、丹波地方を中心として新仏の家や墓に参るハナオレ系と、播磨地方（加古川流域）を中心として山にある寺に参るハナハジメ系の二系統が確認できる。ハナオレ系ではハナオリババが出るといって山に入ることを禁じているが、ハナハジメ系では山にある寺に参り、山遊びを盛んに行うなど山に好んで出かけている。この寺参りや山遊びは、生者と死者霊が同じ時空で過ごすことを目的としていると解釈できる。

卯月八日の竿花は、テントウバナ、タカバナ、ハナなどと呼び、ツツジ・シャクナゲ・シキミを立てる事象が広範囲で確認できる。シキミやヤマツツジを竿花に加える点からは、この竿花が死者を意識して立てられることがわかる。卯月八日までに竿花の花を用意するのは、卯月八日の死者供養の準備のためであり、花は死者と生者をつなぐものとして機能している。

民俗学では卯月八日の花は「田の神の依代」として立てられると解釈されてきたが、兵庫県周辺地域や若狭地方の伝承の実態からはこの解釈が普遍化できないことを指摘した。

キーワード：卯月八日、死者供養、竿花、ハナオレ、ハナハジメ

はじめに

近代以降、日本人は先祖祭祀や葬式などの死の儀礼を簡略化し、最近の若者の間では盆や彼岸の墓参さえ疎かにされるようになってきた。こうした葬送儀礼の合理化により、生者と死者との対話の機会は失われてきているといえる。

しかし一方では、盆や彼岸の他にも卯月八日に死者供養が行われ、重要な葬送儀礼の一つとして現在でも伝承を持続している地域がみられる。本稿では、兵庫県周辺地域で卯月

八日に寺院や新仏の家・墓に参って死者供養を行う習俗や各家で山から採ってきた花を竿の先に括りつけて庭先に高く掲げる天道花習俗について実地調査からその詳細を明らかにし、市町村史などの民俗誌から兵庫県周辺地域での伝承内容とその広がりを整理する。そして、伝承の実態から、兵庫県周辺地域の人々がどのような場所に死者霊がいると考えているのか、そこでは竿花の花がどのような機能を持っているのかを考察したい。さらに、これまでの民俗学者が示したテントウバナやタカバナなどの竿花[1]を「田の神の依代」とする解釈がこれらの地域で普遍化可能であるかを検討する。

1．先行研究の整理

本稿の課題を明確にするために日本民俗学において卯月八日の死者供養や竿花がどのように説明されてきたのかを整理しておく。

（1）柳田國男・最上孝敬の研究

まず、卯月八日の死者供養の日としての一面に注目したのは柳田國男であった。その前段階として、『歳時習俗語彙』[2]に各地の卯月八日の伝承を掲載しており、丹波地方の「ハナヲリハジメ」について次のように説明している。

> 丹波の氷上郡の一部では、新佛のある家で四月八日の日に、盆と同様に他家に縁付いた子女が墓參りに來ることを、花折始めと謂つて居る。

こうした民俗事象の集積を重ねた柳田は、『先祖の話』[3]において、越後村上の百武一族が４月15日に行なう先祖祭や信州東筑摩郡で「いはひでん（一族で祭る共同の小社）」の祭日が４月に設定されている事象を挙げて、正月と盆、春と秋の彼岸以外に４月に先祖祭を行っている伝承があることを指摘し、暦が一般化する以前は初夏の満月の日を年の始めと認識し、それゆえに新年に先祖を祭っていた古い慣習が暦の正月の先祖祭と分離独立して伝承されたと推測している。

最上孝敬は柳田の研究課題を受け継いで、「四月八日」[4]において、兵庫県下での伝承を次のように説明している。

> 兵庫縣加西、印南、飾磨三郡の境に法華山という山があり、ここへ近隣の村々から過去一年間に死者のあつた家のものがお詣りに上るのが四月八日である。そこには西國

巡礼の札所たる天台宗法華山寺もあるが、人々は賽の河原という所へ櫛をおいてくるのだという（西谷勝也氏談）。また最近美囊郡口吉川村や奥吉川村できいたことだが、この辺りで一年以内に死者のあつた家の人々は四月八日にもとは加東郡北端の山上にある光明寺へまいつたという。今は簡単にして近くにある檀那寺へまいつてすませている。まいつた寺には池とかあるいは水を入れた大きな盥があつて、死者の戒名を記した経木をその傍において水をかけるというのである。

最上は以上の事象に加えて群馬県黒保根村や東村で赤城山（地蔵岳）へ登って死者に会いに行くという事象を挙げ、「四月八日は祖霊を高い山の上なり墓地なり、或いは家の近くに迎えまつる日であったろう」「山上なり墓地なりへ迎えにいって家の傍へ迎えて来るという風にも解し得られよう」と結論づけている。

（2）和歌森太郎の研究

柳田や最上が卯月八日と死者供養の関連を指摘した一方で、和歌森太郎は農耕との関連を指摘した。「春山入り」[5]では、喜界島で卯月八日に行なうソーリ（ソーイ）の行事名から田の神迎えを連想し、卯月八日の竿花を「山の神祭りに使つた山の花を、むしろ里におろして田の神を迎えるしろともなし、これを有難く各家のまつりに供える所以であつた」と解釈し、「四月八日を中心とする春山入り、花祭は、里人が山の神を送つて田の神を迎え、以後の田始めの契機とすべき重要な折目としての行事」と定義している。また、『日本歴史新書　年中行事』[6]では、春山入りや花摘みの習俗を「山に入って田の神を迎える、その依り代に山の花を摘み採る、そういう習俗を基底にしたものかと考えられて来る」とし、「山に祖霊がこもるという観念」が、「花が田の神の依り代としてよりも、山頂での供華とか、降りてから仏壇にあげる」という変化をもたらしたと推測している。

（3）柳田・和歌森以降の研究

以上のほかにも多くの民俗学者が卯月八日の死者供養について論考を残している[7]が、柳田・最上の研究の域を大きく越えるものは存在しない。これらの先行研究は、『歳時習俗語彙』の事象に少数の事象を足して論を展開しているのが特徴的であるが、挙げている事象数が少なく、地域的な偏りがあることが大きな問題点である。また、和歌森の竿花が「田の神の依代」であるという解釈は、各地の民俗事象の確認をしないままに一人歩きしているといえる[8]。

筆者は、以上の研究動向を踏まえ、「若狭地方の松尾寺参り」[9]で卯月八日に松尾寺に

参る伝承について考察した。この論考では、これまで未整理であった若狭地方の松尾寺参りの伝承内容や分布状況を明らかにした上で、若狭地方の人々、特に青葉山周辺の大飯郡・遠敷郡・舞鶴市域の人々は松尾寺に死者霊が集まるという霊魂観をもっており、こうした死者霊の集まる場所は生活圏と非常に密接していることを指摘した。また、これらの地域で「天道花」「テントバナ」などと呼ばれ門前に立てられる竿花が死者を意識して立てるものであることを伝承の実態から指摘したことは、和歌森の「田の神の依代」論が各地の伝承に普遍化できないことを証明できたといえる。

本稿では、「若狭地方の松尾寺参り」と同様に、習俗の地域的展開と伝承の実態を把握した上で、兵庫県周辺地域の人々がどのような場所に死者霊がいると考えているのかを明らかにし、竿花を「死者を意識して立てる」という解釈が兵庫県周辺地域でも普遍化が可能であるかを考察する。

２．法華山一乗寺のハナハジメ

２章では、広いエリアから参詣者を集めている寺のうち、法華山一乗寺（兵庫県加西市）で行われるハナハジメ習俗を取り上げる。

（１）調査地の概況

加西市は兵庫県中南部に位置し、法華山一乗寺は加西市の南西部の山あいに建つ650（白雉元）年に法道仙人の開基と伝わる天台宗の寺院で、西国三十三所の第26番札所である。坂本町は山を下った場所にある100世帯273人が居住する[10]一乗寺に最も近い集落で、ハナハジメの際には参詣者の接待を行うなど、門前町としての役割を持っていた地域だといえる。筆者は2015年８月19日、2016年３月２日に坂本町で聞き取り調査、2019年５月８日に一乗寺で習俗の実地調査を行った。

（２）加西市坂本町の花供養・ハナハジメ

【坂本町Ｈ家】（1944年生、男性）

５月３日から８日の間に花祭大祭が法華山一乗寺で行われる。花祭り供養を略して花供養と呼ぶこともある。

塔婆供養は３日から８日までの間行われ、３日から７日の間は僧侶が一人で供養に携わるが、本祭の８日には近隣の寺院から僧侶がたくさん集まる。塔婆供養は先祖の供養のために行うもので、先祖供養・個人の名前・施主の名前を塔婆に書いてもらう。塔婆供養を

するのは新仏の人が多く、戒名を書いてもらう家がほとんどである。この塔婆は三段の施餓鬼棚の最下段にある水器の水をかけ、別にある水を張った桶につけて納める。

【坂本町Ｋ家】（1948年生、男性）

５月８日、新仏ができて初めてのハナハジメは法華山一乗寺の本堂に参詣する。新仏の家の人は絶対に参詣するものである。一乗寺には宗派を問わず周辺の地域からたくさんの参詣者が集まるため、以前坂本町は休憩所になっていた。かつて新仏が出たときには、家で親類を招き、素麺・沢庵・おにぎり・酒・肴・弁当・仕出しなどを振る舞ったが、具に肉を入れない。死者のつれあい・子ども・兄弟・おじ・おばなどの縁者が20人から25人集まり、皆で寺に参った。寺では、薄い塔婆（経木のこと）に死者の戒名を書いてもらい、祭壇の榕の枝で水向した後、境内に置いてある盥の水に浸けて供養する。かつては法華山一乗寺の石段下に場所をとって弁当を食べ、酒を飲んだ。巻き寿司、握り飯、煮物、沢庵、酒などを楽しんで食べた。これは、親戚や縁者が集まるよい機会になっていた。

６日にはハナといい、シャシャキ（仏花）とヤマツツジの花を１間（1.8m）の竹竿の先に挿して家の前栽に高く立てていた。これは、40年前から50年前頃まで行っていた。ツツジは「薄い色では仏さんにいけない」といい、赤い花を山に採りに行ったが、この季節はどの山もツツジの花盛りで真っ赤だった。このツツジは仏壇にも供えた。ハナは８日の晩に倒し、家のゴミと一緒に燃やした。

【写真１】ハナハジメの祭壇
（2019 年５月８日、筆者撮影）

【写真２】塔婆を納める場所
（2019 年５月８日、筆者撮影）

なお、最上孝敬が「卯月八日」で紹介した賽の河原に榕の枝を供えるという伝承は聞くことができなかった。筆者も2019年５月８日に法華山の賽の河原を訪れたが、榕の枝を確認できなかったので、伝承は途絶えてしまったと考えられる。

（3）要点の整理

聞き書き資料より、坂本町の卯月八日の要点を以下のように指摘できる。

一つは死者供養の習俗で、一乗寺周辺の地域の新仏が出た家の人は宗派を問わず親戚一同とともに一乗寺に参詣して塔婆供養・水向供養を行う。

もう一つは竿花の習俗で、各家では山から採ってきた花を庭先に立て仏壇にも供える。

以上の要点がどのような地域的広がりをもっているのかを３章で確認する。

３．兵庫県周辺地域の卯月八日

３章では、市町村史や民俗調査報告書の記述をもとに、兵庫県とその周辺の地域で伝承されている卯月八日の死者供養と竿花の伝承内容とその分布を明らかにする。なお、分析の対象とする地域は、死者供養の習俗が確認できる兵庫県下の地域（丹波・摂津・播磨・但馬・淡路地方）に加え、京都府下の地域（丹波地方）も含める。

（1）各地域の卯月八日

兵庫県周辺地域の卯月八日の死者供養と竿花の伝承を【表１】に整理した。その中の７例をこの地域の卯月八日の代表的事例として次に挙げたい。

【事例１】京都府亀岡市大内

行事は先ず五月八日に赤花と呼ばれる山ツツジの花を摘みに行くところから始まるが、この日行っては別に「花折の日」とも呼ばれ、特に新仏のある家では墓参りに蓬団子を供えるという[11]。

亀岡市大内では、アカバナと呼ばれるヤマツツジを採ることが大切にされている。この地域では花折りの日といって新仏の墓に蓬団子を供えている。

【事例２】京都府京丹波町旧丹波町

庭先に天道花を立てる。竹竿の先につつじ・しきみ・ふじの花をつけて庭先に立てて、先祖の供養をする。また花折りといって庭石の上にしきみ・つつじの花を供える。昨年秋から五月七日までに、亡くなられた家へお供えを持って参る。「ぼた餅」を作って供えるところもある[12]。

旧丹波町では、新仏の家へ参る。また、庭先にシキミ・ツツジ・フジの天道花を立てて先祖の供養とし、花折りといってシキミ・ツツジを庭石の上に供えている。

【事例３】兵庫県丹波市旧山南町岡本・金屋

この日をウズキの日という。お釈迦さんの誕生日で、お寺に甘茶をもらいに行った。

また各家で先祖さんの墓にまいった。特別な用意はしない。また、テントウさんに供えるといい竿の先に、ハナ（シキビ・シャクナゲ・アカバナ＝ツツジのこと）をさして立てる。シキビ・アカバナなどは２～３日前の適当な時に山に取りに行く。バケツに水を入れ、これに入れておき５月８日にさすのである。竿の横に台を置き、台の上にシキビ・アカバナ・シャクナゲを一枝ずつ折ったものを並べる。その上にお米をまき、シキビの葉で茶碗の水を振りかけながら「虫ケラに噛まれませんように」と言う。以上のことをすることをハナオリというが、このハナオリの日に山に行けばハナオリババが出てくるので山に行くなという。だから、この日は気持が悪くて山には行けなかった。翌朝早く、このハナオリをかたずけなければいけないという。竿が立っている間に病気になれば、その病気が長びくからである[13]。

旧山南町では、シキミやアカバナと呼ばれるツツジを立て、太陽に供える。そして、ハナオリといって、シキミの葉で水向をして虫に咬まれないように願う。また、この地域ではハナオリババが出るといって山に立ち入ることを禁じており、先祖の墓参りをする。一方で、旧山南町谷川では「花参りとか、花はじめといい夫婦、親子、兄弟、親類を誘い合わせ、加東郡の光明寺へ戒名を持ってお参りする。この日参ると必ず仏に出合う[14]」という伝承も確認できる。光明寺は山の上にある寺であるため、旧山南町は山へ入ることを禁忌とする伝承と山寺に参る伝承が両方存在する地域であると指摘できる。

【事例４】兵庫県三田市母子

新仏のある家は、この日は墓参りの日でもある。墓は普段は参るところではないが、彼岸・オヅキヨウカ・盆にはまいる。なかでもオヅキヨウカと盆が大事であった。

また施餓鬼と言って、朝方より新仏のある家に村内の各家が訪問し、供え物をする。昔は訪問を受ける家が寿司や各種料理で接待したが、現在は簡略化されている。これとは別に永澤寺で施餓鬼供養が昼ごろから行われる。平成になってから各家の代表が参加することになっているが、これは村の総会を兼ねているからで、かつては新仏の家だけの行事であった[15]。

三田市母子では、新仏の墓や家に参り、永澤寺にも参詣している。墓や家に参る伝承と寺に参る伝承が同時に存在している。また、この地域では盆と並んで卯月八日が死者供養の日として大切にされている。

【事例５】兵庫県三田市下須磨田

八日の早朝、「日輪さんをおまつりする」といって、ハナを日の出の方に向けて井戸端に立てた。マムシや虫にかまれないようにと拝む。その際、樒の葉で水を手向ける。また仏壇には一年に一回赤い花を立てる日であった。ただし夕方にはこの花は取り替

えるものであった[16]。

三田市下須磨田では、旧山南町岡本・金屋と同様にシキミの葉で水向をして虫を除ける呪いをする。また、亀岡市大内と同様に赤い花が重要視されているが、夕方には取り換えていることから、卯月八日における赤い花の特異性が指摘できる。

【事例６】兵庫県神河町長谷

当地では新らしい仏が出来ると卯月八日には必ず、親類縁者が集ってお寺へ供養に参詣する。花詣りと言う。卯月八日が忌中なれば翌年花詣りをするのである。

昔は花詣りと言えば滝野の光明寺に定った様に、徒歩、自転車にて、近郷よりの参詣人多く随分混雑したものであった。

喪家は親類の弁当を用意して行き、闘竜灘の巌の上にて飛鮎を眺めながら食事をしたのであったが、現在は光明寺へ詣る人はほとんど無く、檀那寺の花祭りに詣る様になっている。縁者は揃うて本堂へ参詣し、故人の塔婆を書いてもらい、住職の読経、回向を受け、焼香の後、その塔婆を境内にしつらえた手向台にて樒をもって水を手向けて冥福を祈る。

尚、俗に“卯月八日は花より団子”（卯月八日は花折れ団子）と言われる様に石楠花、つつじの花を二日前に折り来り、当日はその花に樒を添えて仏壇に供へ、又別に十尺位いの竹の先に花を結い付け、表の庭の適当な所に立て、その根元にも花を挿し、湯茶をそゝいで供養する。

又この日使う花には“もち花”“もちつゝじ”と言われる花萼に粘りの有るつゝじは、仏の足がもつれると言って折らない習俗になっている。

石楠花は必須の供華と言はれ、昔は西播方面より、暖かくなれば山蛭にて山中に入れないと寒中に、石楠花の枝を売りに来たのであるが、今は石楠花売りも来なくなり、石楠花を是非にと言う観念も薄らいでいる様である。

当日、仏に団子を供へ他に七種の山菜、野菜類を煮て供える。この七種は正月の七種の如く定まったものではなく、わらび、蕗、筍等手近な材料を使う。

新仏の無い家ではお寺詣りはしないが家での仏祭りは同じである[17]。

神河町長谷では、新仏の出た家の人と親類縁者が加東市の光明寺に参っている。寺では塔婆供養と水向供養を行う。この供養の形式は一乗寺で行われるものと同一であり（２章）、若狭地方の松尾寺参りも同一の形式で行われている。家々ではシャクナゲとツツジにシキミを添えて仏壇に供え、同じ花を庭先にも立てている。仏壇には花のほか、団子や七種の供物を供える。

【事例７】兵庫県香美町余部・御崎

ハナハジメであるが、余部・御崎で残っており、菓子等を持って当家に行き、仏前に供え、墓参りもする[18]。

香美町余部・御崎では、ハナハジメといって新仏に当たる家や墓に参る。同様に、養父市旧八鹿町石原・椿色・妙見では「新仏のある家では花はじめといって、親類が集まり、墓にもテントバナを立てる[19]」という。香美町や養父市などの但馬地方では、寺に参らず、新仏の家や墓に行くことをハナハジメといっていることがわかる。

（２）要点の整理

以上の民俗事象と【表１】の情報を整理すると、死者供養と竿花の習俗の要点を次のように指摘できる。

①死者供養

行事名と参詣場所、去来伝承を見ていくと、この地域の死者供養にはハナオリ系とハナハジメ系の２つの系統があることが指摘できる。

系統	伝承地	参る場所	山遊び	去来伝承
ハナオリ	丹波	新仏の家や墓	禁忌	ハナオリババ
ハナハジメ	播磨（加古川流域）	寺に参る	活発	死者

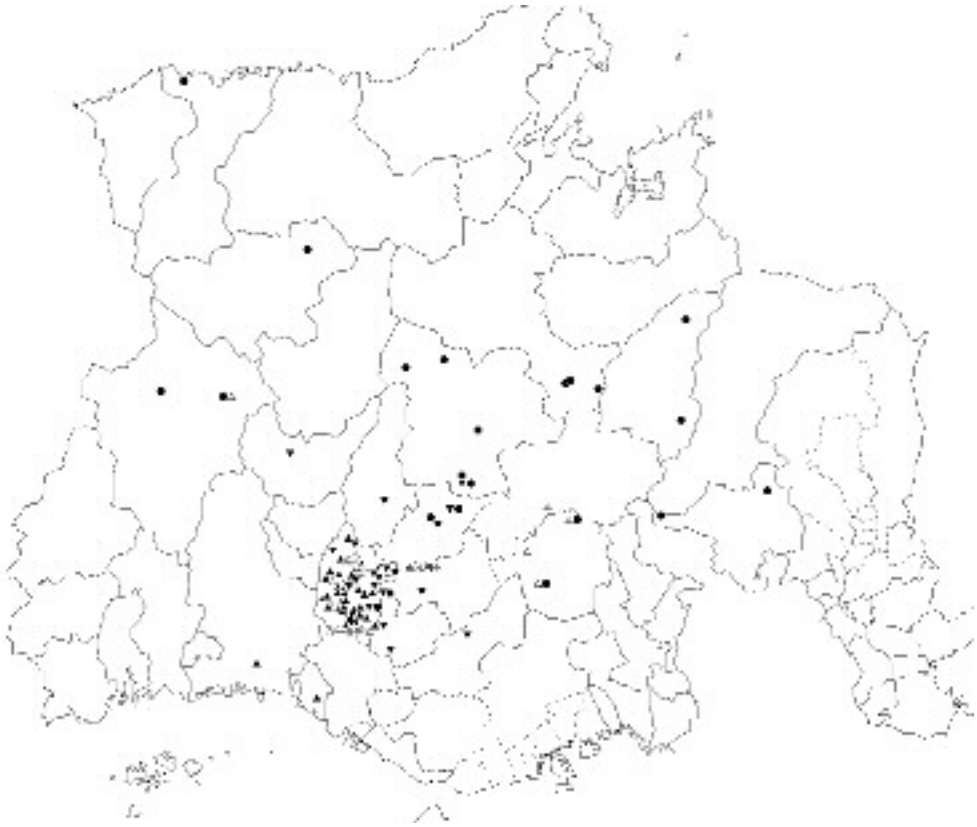
ハナオリ系は、行事名をハナオリやハナオレ、初花折り、花折り始めなどと呼び、新仏の出た家や墓に参る。さらに、去来伝承を見ていくと、卯月八日の山にはハナオリババが出るといい、山で遊ぶことを禁忌としている。

ハナハジメ系は、行事名をハナハジメ、ハナマイリなどと呼び、新仏の家の人が親戚を連れ立って寺に参詣する。少数であるが、寺で死者に出会うという伝承が確認でき、山にある寺や山で弁当を食べて過ごす山遊びが盛んに行われている。

ただし、但馬地方の養父市や香美町ではハナハジメと呼ぶものの、寺に参らない。また、旧山南町（丹波地方）・三田市（摂津地方）では両系統の伝承が確認できる。

以上を整理すると、ハナハジメ系は加古川流域の播磨地方を中心に分布し、ハナオリ系は丹波地方を中心に分布し、ハナハジメ系の分布の外側に広く分布が確認できる。加えて、両系統の伝承の境目は旧山南町や三田市周辺であるといえる【地図１】。

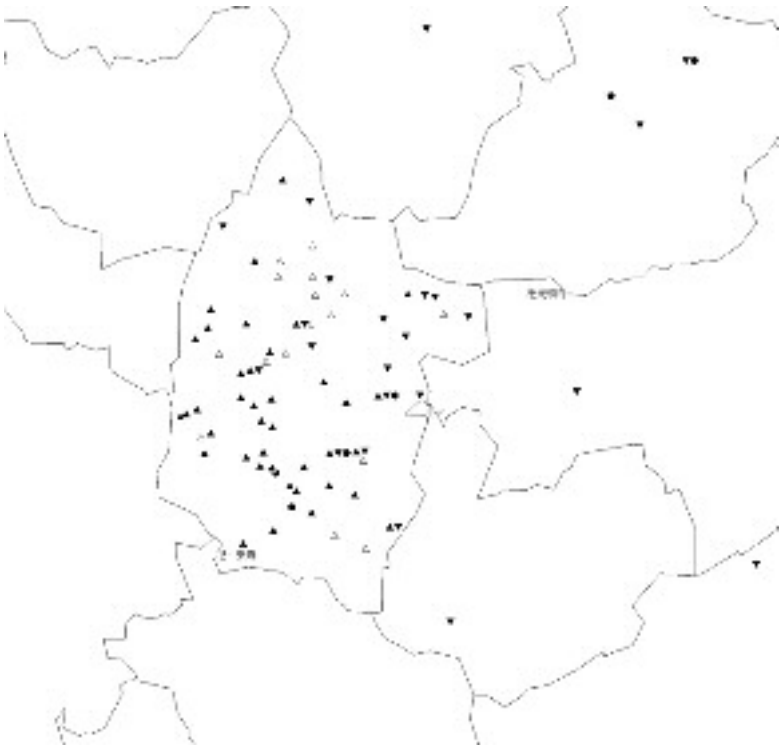
さらに、参詣場所となる寺院は、加西市の一乗寺と加東市の光明寺が広範囲から参詣者を集めていることがわかる。【地図２】からは、加西市の人々が居住地に近い方の寺を選択していることがわかる。また、死者供養を檀那寺で行う地域があるが、一乗寺や光明寺



【地図１】卯月八日の死者供養で訪れる場所（▲一乗寺、▼光明寺、△檀那寺、●新仏の墓や家）

への参詣から檀那寺へ移行した事象が認められ[20]、ハナハジメの伝承が一乗寺や光明寺から各地の寺院へ展開していったことが推測できる。

また、ハナハジメ系の伝承では寺院で塔婆供養・水向供養を行う点が共通している。この水向供養のことを加西市田谷町では「オチツキ」と呼んでおり[21]、死者の安らかな成仏を願う儀礼であると考えられる。なお、塔婆供養・水向供養という供養の形式は、若狭地方の松尾寺参りでも同様である。



【地図２】加西市周辺のハナハジメ（▲一乗寺、▼光明寺、△檀那寺、●新仏の墓や家）

②竿花

兵庫県周辺地域では、家の庭先に花を立てる習俗が大変多く確認できる。

名称	テントウバナ、タカバナ、ハナなど
花の種類	広範囲でツツジ・シャクナゲ・シキミ
供物	同じ花や供物（七色のおかず・おひたし）を墓や仏壇に供える
水向	虫除け
呪力	虫・蛇除け（特にマムシ）、捜索、花湯
依代	死者霊・病魔
対象	ホトケ

竿花はテントウバナ、タカバナ、ハナなどと呼ばれ、広範囲でツツジ・シャクナゲ・シキミを立てている。なかでも、「仏花」であるシキミや「赤花」と呼ばれるヤマツツジを竿花に加える点が特徴的である。また、花立ての下に台をつくり、供物をする。そこには立てた花と同じ花や七色のおかず･おひたしと呼ばれる山菜や野菜の精進料理が供えられ、墓や仏壇にも同じものを供えている。この竿花の下で水向をする事象が確認でき、多くはマムシ除けの呪いであるという。

さらに、竿花を立てることにより花に呪力を付着させる伝承が確認できる。たとえば、虫や蛇除けの力を付着させるもの、人や牛馬が行方不明になったとき捜索する力を付着させるもの[22]、一年を健やかに過ごす力を付着させるものがある[23]。花立てが死者霊や病魔の依代となる伝承も確認できる[24]。花を捧げる対象は太陽や月、釈迦が確認できるが、仏や先祖を対象とするのは他の地域では見られない伝承である。

４．兵庫県周辺地域の卯月八日の死者霊の所在と竿花の考察

３章では、兵庫県周辺地域の卯月八日習俗の実態と伝承の広がりを明らかにしたが、ここから兵庫県周辺地域の人々がどのような場所に死者霊がいると考えているのか、そこでは竿花の花がどのような機能を持っているのかを考察してみたい。

（１）死者霊の所在

兵庫県周辺地域では死者霊の所在について言及している民俗事象が確認できる。加西市田谷町では「先祖は彼岸には骨を埋めた墓まで、八日には寺のある山まで、盆には家まで還ってくるというが、現在は常に家の仏壇にいる[25]」といい、加西市上芥田町では「五月八日の花はじめには加東市光明寺のある山に、春秋の彼岸には墓に、盆やムカワレには家に還ってくる[26]」という。また、三田市上内神香下では「オヅキヨウカはハナハジメといい、先祖が帰ってくる日[27]」、丹波市旧山南町谷川では「（光明寺へ）この日参ると必ず仏に出合う[28]」という。以上から、兵庫県周辺地域の人々は卯月八日に山や山にある寺に死者霊がいるという霊魂観を持つことが指摘できる。丹波地方に広く見られるハナオリババの伝承は、こうした死者霊が山にいるという伝承が変化した形であるということができよう。

加えて、加西市の２例は、死者霊が彼岸・卯月八日・盆という段階を追って生者の生活空間に近づきながら帰るというプロセスを説いている。生者が死者霊のいる寺に参るハナハジメの伝承は、生者か死者のいずれか一方が近づくというのではなく生者と死者霊が互いに近づきあうという感性を伝承地の人々が大切にしていることを示している。

（２）死者の花としてのヤマツツジ

卯月八日に死者供養を行う兵庫県周辺の地域では、ヤマツツジなどの赤い花やシキミなどの仏花が竿花に用いられ、同じ花を竿花の下や仏壇・墓に供えている【地図３】。

加えて、赤いヤマツツジを「アカバナ」と呼び、卯月八日だけ赤い花を仏壇に供える地

【地図３】ヤマツツジを立てる・供える地域

域（三田市下須磨田・波田、加西市坂本町）や、「オヤバナ」という呼称のある地域（丹波篠山市旧今田町黒石）が確認できる。これらのことから、ヤマツツジは死者供養のための供花であると指摘できる。

以上より、兵庫県周辺地域での卯月八日の寺参りや山遊びの伝承は、生者と死者霊が同じ時空で過ごすことを目的としているといえる。そして、卯月八日までに山の赤い花であるヤマツツジを採って仏壇や墓に供えたり庭先に立てたりするのは、卯月八日の死者供養の準備のためであり、花は死者と生者をつなぐものとして機能している。

このように兵庫県周辺地域（播磨･但馬･摂津･丹波）においては、卯月八日の竿花は「田の神の依代」という和歌森の解釈はリアリティを持たず、普遍化できない。一方で、竿花は死者を意識して立てたり供えたりするものだという解釈が兵庫県周辺地域や若狭地方では普遍化できる。

おわりに

本稿では、加西市坂本町での伝承と兵庫県周辺地域の民俗事象182例から、卯月八日に行われる死者供養と竿花について伝承の内容と分布を整理した。

卯月八日の死者供養には、丹波地方を中心として新仏の家や墓に参るハナオレ系と、播磨地方（加古川流域）を中心として山にある寺に参るハナハジメ系の二系統が確認できる。ハナオレ系ではハナオリババが出るといって山に入ることを禁じているが、ハナハジメ系

では山にある寺に参り、山遊びを盛んに行うなど山に好んで出かけている。この寺参りや山遊びは、生者と死者霊が同じ時空で過ごすことを目的にしていると解釈できる。

卯月八日の竿花は、「仏花」であるシキミや「赤花」と呼ばれ死者の花としての性格を持つヤマツツジを竿花に加える点から、死者を意識して立てられることがわかる。卯月八日までに竿花の花を用意するのは、卯月八日の死者供養の準備のためであり、花は死者と生者をつなぐものとして機能している。

そして、民俗学では卯月八日の花は「田の神の依代」として立てられると解釈されてきたが、兵庫県周辺地域や若狭地方の伝承の実態からはこの解釈が普遍化できないことを指摘した。

日本は超高齢社会を迎え、死がさらに身近なものになっていく。その一方で、生者が死者と対話するための機会である葬送儀礼や歳時習俗は失われていく。民俗学では、葬送儀礼についての膨大な研究蓄積があるが、葬送儀礼からどのように生者が近親者の死を受容してきたかということは考察の対象とされてこなかった。民俗学の立場からこうした儀礼や習俗の全容を捉えることは、個別化する社会でどのように親しい者の死を乗り越えてゆくのかを考えるよすがとなろう。

今後の課題としては、亡くなって間もない死者を供養する儀礼がどのように全国に展開しているのかを把握することが挙げられる。たとえば、八葉寺（福島県会津若松市）の冬木沢参り、大山茶湯寺（神奈川県伊勢原市）の百一日参り、朝熊山（三重県）のタケ参りなど、若狭地方の松尾寺参りや播磨地方のハナハジメに類似した習俗が全国で確認できる。これらを整理することによって、どのように日本人が死を受け容れてきたかを明らかにしていきたい。

本稿の執筆にあたり、元坂本町区長の小谷安富氏には格別のご配慮をいただき、地域の伝承をご教示いただきました。厚く御礼申し上げます。

註

（1）日本民俗学では卯月八日に庭先に掲げられる花を「天道花」と呼んでいるが、この呼称は一部の地域に限られ、呼称を持たない地域もあるため、本稿では「竿花」と総称することにする。

（2）柳田國男『歳時習俗語彙』民間傳承の會、1939年、「ハナヲリハジメ」の項

（3）柳田國男『先祖の話』筑摩書房、1945年４月15日

（4）最上孝敬「四月八日」『民間傳承』第16巻第４号、日本民俗学会、1952年４月５日、40～43頁

（5）和歌森太郎「春山入り」『日本民俗論』千代田書房、1947年11月１日、95～110頁

（６）和歌森太郎『日本歴史新書 年中行事』至文堂、1957年３月25日、90～98頁

（７）都丸十九一「春山入り」『講座　日本の民俗６　年中行事』有精堂出版、1978年／五来重「仏教行事と花」『花と日本文化』小原流文化事業部、1971年「灌仏会と花祭」『淡交』三〇－四、淡交社、1976年、「花祭と花供養―春」『茶道雑誌』四二－四、河原書店、1978年／木村博「卯月八日の習俗をめぐって」、宮家準「修験道の峰入りと卯月八日」、伊藤唯真「卯月八日の民俗と仏教―西日本の事例から―」（『日本民俗学』第128号、日本民俗学会、1980年７月１日）など。

（８）たとえば、『日本民俗大辞典』（下、吉川弘文館、2000年４月）「天道花」の項では、浦西勉が「水口に立てる水口祭の花とも関連があり、この風習は稲作との関係が強く存在していると思われる」と解説している。

（９）伊藤新之輔「若狭地方の松尾寺詣り」『伝承文化研究』第16号、國學院大學伝承文化学会、2019年７月31日、38～51頁

(10)『加西市統計書』平成30年版、加西市、2019年３月

(11)『新修亀岡市史』資料編第五巻、亀岡市史編さん委員会、1998年

(12)『丹波町誌』丹波町誌編さん委員会、1985年

(13)『岡本・金屋の民俗―兵庫県氷上郡山南町―』御影史学研究会山南町民俗調査団、1988年

(14)『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班、1971年

(15)『三田市史』第９巻民俗編、三田市総務部市史編さん課、2004年

(16)（15）と同書

(17) 坂本花恨『長谷習俗誌』（非売品）1981年５月５日、111・112頁

(18)『但馬海岸　但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』兵庫県教育委員会、1974年

(19)（14）と同書

(20) 西脇市旧黒田庄町門柳（黒田庄「ふれあい会」十二名『思い出でつづる　黒田庄民俗史』黒田庄「ふれあい会」、1999年）、加西市段下町・加西市栄町（ともに『加西市史』）、神崎郡神河町長谷（坂本花恨『長谷習俗誌』（非売品）1981年）が挙げられる。姫路市東部・東南部地区では「この一年間に死者を出した家では、法華山一乗寺に参詣して塔婆をあげる。一般に家族が参詣するが、飾東町庄では、新盆の供養として老人会の役員が参詣する。彼らに同伴して参詣する仲間たちは、足腰が弱ると近くの寺に参詣して塔婆をたてる」という（『姫路市史』第十五巻 上 別編 民俗編、姫路市史編集専門委員会、1992年７月23日、64～67頁）。

(21)『加西市史』第六巻本編６民俗、加西市史編さん委員会、2007年

(22) たとえば、兵庫県川西市では「市内一般には花の一部を蔵のひさしなどに陰干しして保存し、行方不明の人が出たらこれをたいて煙の流れる方向をさがすと見つかる」という（『かわにし川西市史』第七巻文化遺産編、川西市史編集専門委員会、1977年３月30日、349・350頁）

(23) たとえば、兵庫県豊岡市旧竹野町では「山ツツジ・藤などの花を風呂に浮かべて入浴した。このような風呂を「花湯」と呼んだ。花湯に入れば、疫病にかからないと信じられた」という（『竹野町史』民俗・文化財・資料編、竹野町史編纂委員会、1991年）

(24) 病魔は花を立てた者が意図して招くものではない。たとえば、京丹波町旧和知町仏主・細谷では「テントウバナの竿を立てている間に病気になると長煩いするといい、翌朝、人の来ない内に早く片づける」という（『日本民俗調査報告書集成　近畿の民俗　京都府編』三一書房、1995年６月30日、456頁）

(25) (21) と同書

(26) (21) と同書

(27) (15) と同書

(28) (14) と同書

【表１】兵庫県周辺地域の卯月八日

番号		伝承地	行事名	死者供養					竿花							出典
				参詣場所	対象	山遊び	去来	供物	名称	花の種類	特徴	供物	水向	呪力	依代	対象	
1	丹波・京都府	福知山市旧三和町	ウヅキヨウカ、初花折り	家／墓	新仏					シキミ・ツツジ	仏花					太陽／釈迦	『三和町史上巻(通史編)』三和町史編さん委員会 1995
2		福知山市旧三和町銀見村	花折り始め	家	新仏					ツツジ						天の神様	昭和五十年度『民俗採訪』
3		福知山市旧三和町大身	卯月８日	家／墓	新仏					ツツジ／ツバキ／フジ							『日本民俗調査報告書集成　近畿の民俗　京都府編上二一書房 1995
4		亀岡市出雲	テントウバナ／ハナオレ	墓	新仏			甘茶・ツツジ	テントウバナ	ツツジ		オハギ・水					『新修亀岡市史資料編第五巻』亀岡市史編さん委員会 1998
5		亀岡市土ケ畑	ヨウカビ	家	新仏					シキミ・ヤマツツジ	赤花・仏花	団子		雨乞／捜索	無縁仏		『新修亀岡市史資料編第五巻』亀岡市史編さん委員会 1998
6		亀岡市大内	ヨウカビ／ウヅキヨウカ／花折の日	墓	新仏			団子		シキミ・フジ・ヤマツツジ・ヤマブキ	赤花・仏花	団子・水		捜索		太陽	『新修亀岡市史資料編第五巻』亀岡市史編さん委員会 1998
7		京丹波町旧丹波町	ようか日／花折り	家	新仏			ボタモチ／シキミ・ツツジ（蕗石）	天道花	シキミ・ツツジ・フジ	仏花					先祖	『丹波町誌』丹波町誌編さん委員会 1985
8		京丹波町旧和知町広土・柳谷	卯月八日／初花／初花折り	家	新仏	×	花折姫		テントウバナ	シキミ・フジ・ツツジ・ヤマブキ	仏花	藤巻・花		捜索／マムシ	病魔	太陽	『日本民俗調査報告書集成　近畿の民俗　京都府編上二一書房 1995
9		丹波篠山市旧丹南町黄南条	花おり	永沢寺	新仏	×	山ウバ（鬼婆）	米粉（仏壇）	おづき花	シキミ・（シャクナゲ）・ヤマツツジ	赤花・仏花	シキミ・ヤマツツジ・洗米・藁の束・唐辛子・団子		マムシ		釈迦	『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
10		丹波篠山市旧今田町黒石							テンジク木	ウツギ・モチツツジ・ヤマツツジ	赤花・仏花	シキミの葉・水・米	○				『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
11		丹波市旧青垣町	花祭り							シキミ・ツツジ・ヤマブキ	仏花						『青垣町誌』青垣町　1975
12		丹波市旧青垣町寺内		墓						シキミ・シャクナゲ・ツツジ	仏花						『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
13		丹波市旧青垣町大名草		墓				同に花（墓）／団子（仏壇）	テントウさんのカサ	シキミ・シャクナゲ・ツツジ・ホオ	仏花						『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
14	丹波・兵庫県	丹波市旧青垣町西芦田							テントウバナ	シキミ・シャクナゲ・ツツジ	仏花			捜索			『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
15		丹波市旧春日町野瀬								ウツギ・シキミ・フジ・ヤマツツジ	赤花・仏花		マムシ	（ウツギ＝マムシ）			『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
16		丹波市旧市島町								シキミ・シャクナゲ・ツツジ	仏花						『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
17		丹波市旧山南町谷川	花参り／花はじめ	光明寺／墓			死者	同に花（墓）		ウツギ・シキミ・シャクナゲ・ツツジ	仏花						『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
18		丹波市旧山南町岡本・金屋						団子・七色のオヒタシ（仏壇）									『岡本・金屋の民俗――兵庫県水上郡山南町――』御影史学研究会山南町民俗調査団 1988
19		丹波市旧山南町岡本・金屋	ウズキの日、ハナオリ	墓		×	ハナオリババ	同に花（仏壇）	テントウバナ	シキミ・シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花・仏花	同に花／米／水		マムシ・ムカデ	病魔		『岡本・金屋の民俗――兵庫県水上郡山南町――』御影史学研究会山南町民俗調査団 1988
20		丹波市旧柏原町田路							タカバナ			水	○				『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
21		丹波市旧氷上町石生	花おりぞめ	墓		×	花おりババ	同に花（墓）		シキミ・シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花・仏花			マムシ			『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
22	摂津	西宮市旧山口村	卯月八日					甘茶・花（門前・庭の棚）								雑草・三界の精霊	『山口村誌』山口村誌編纂委員会 1973
23		伊丹市	ウヅキヨウカ						テントバナ	モチツツジ		団子		収穫遅れ		太陽	『伊丹市史第6巻』伊丹市史編纂専門委員会　1976
24		伊丹市池尻	ウヅキヨウカ（オヅキヨウカ）						テントバナ	モチツツジ／ウツギ・ヤマツツジ	赤花	団子			病魔	太陽	『聞き書き　伊丹のくらし―明治・大正・昭和―』伊丹市立博物館　1989
25		伊丹市南野	ウヅキヨウカ（オヅキヨウカ）						テントバナ	モチツツジ				捜索		太陽	『聞き書き　伊丹のくらし―明治・大正・昭和―』伊丹市立博物館　1989
26		宝塚市小浜・山本	ウズキヨウカ、ハナ・マツリ							ヤマツツジ	赤花			脚気／捜索	草履		『宝塚市史　第七巻　別編Ⅰ（文化遺産編）』宝塚市史編集専門委員会 1980
27		宝塚市大原野	ウズキヨウカ、ハナ・マツリ							ヤマツツジ・ネブ（黄色い花）	赤花	団子・水		捜索		太陽	『宝塚市史　第七巻　別編Ⅰ（文化遺産編）』宝塚市史編集専門委員会 1980
28		宝塚市上佐曽利	ウズキヨウカ、ハナ・マツリ							カタギ・ツツジ		団子・水			病魔	太陽	『宝塚市史　第七巻　別編Ⅰ（文化遺産編）』宝塚市史編集専門委員会 1980
29		川西市	ウヅキヨウカ、ヨウカビ			○			テントウバナ／ハナ	フジ・モチツツジ		オハギ／団子		収穫遅れ／マムシ	病魔	太陽／月	『ふるさと川西市史第七巻文化遺産編』川西市史編集専門委員会 1977
30		川西市山下	オヅキ８日							ツツジ				雷			『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
31		三田市母子	オヅキヨウカ	家／墓／永沢寺	新仏			甘茶／飯・蓬餅	テントウバナ／ハナ	シキミ・シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花・仏花	同に花	先祖を迎える	虫	先祖（水向）	先祖	『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
32		三田市波田	ハナハジメ	寺	新仏			七色のおふや／同に花		シキミ・モチツツジ・ヤマツツジ	赤花・仏花	七色のおふや・水	○				『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
33		三田市山田	オヅキヨウカ／花施餓鬼					団子／七色のおふや（仏壇）／ハナ（墓）		シキミ・シャクナゲ・モチツツジ・ヤマツツジ	赤花・仏花	七色のおふや	○／ハナのしずく	捜索			『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
34		三田市下青野	オヅキヨウカ		新仏			蓬餅・ハナ（仏壇）		キツネバナ・シキミ・モチツツジ	仏花	洗米・藁巻・花	マムシ		ホトケサン		『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
35		三田市下内神	オヅキヨウカ	寺／墓	新仏			オハギ（墓）／蓬餅（墓）	タカバナ				ヘビ				『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
36		三田市上内神	オヅキヨウカ					酒（ハナのしずく）と桶の葉で手向け分）団子・七色のおふや（仏壇）									『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
37		三田市上内神末東	オヅキヨウカ							ハナ		七色の野菜					『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
38		三田市上内神小柿	オヅキヨウカ					新茶・団子・シキミ・ボケ・モチバナ	ハナ			米・水	マムシ				『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
39		三田市上内神香下	ハナハジメ				先祖	オブキの七色・蓬餅									『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
40		三田市加茂	オヅキヨウカ					甘茶・団子・餅（仏壇）		キツネバナ・シャクナゲ・モチツツジ		塩・米・団子・餅	○	目にゴミが入る／捜索			『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
41		三田市下須磨田	オヅキヨウカ					赤い花（仏壇）	ハナ	モチツツジ・ヤマツツジ	赤花	シキミ・モチツツジ・ヤマツツジ／団子	○マムシ			太陽	『三田市史第9巻民俗編』三田市総務部市史編さん課 2004
42	神戸市	神戸市垂水区押部谷町押部							テンバナ	ツツジ						ホトケサン	『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
43	姫路市	姫路市	花祭り／花始め	一乗寺	新仏	○				シャクナゲ・ヤマツツジ・ヤマブキなど三種から五種	赤花	藤巻／ハナ		捜索			『姫路市史　第十五巻　上　別編　民俗編』姫路市史編集専門委員会 1992
44		姫路市旧家島町坊勢				○		山の花（仏壇）									『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
45		姫路市旧城東町	ウヅキ年忌						タカバ			オハギ／団子／シキミ／ツツジ	○				『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
46		相生市	ウズキヨウカ、灌仏会			○											『相生市史　第四巻』相生市史編纂専門委員会　1987
47		加古川市中山・細工所	ウヅキヨウカ							ウヅキノハナ・モチツツジ							『加古川市史　第七巻　別編Ⅰ（民俗・文化財編）』加古川市史編さん専門委員　1985
48		加古川市西中	ウヅキヨウカ						テントバナ	ウツギ・キクナ・サカキ	仏花						『加古川市史　第七巻　別編Ⅰ（民俗・文化財編）』加古川市史編さん専門委員　1985
49		加古川市	おやくしさん														『加古川市史　第七巻　別編Ⅰ（民俗・文化財編）』加古川市史編さん専門委員　1985
50		加古川市旧志方町				○				ウツギ・タンポポ・レンゲ							『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
51		加古川市神野町石守	ウヅキヨウカ（卯月八日）			○			てんばな	ヒサカキ・ヤマツツジ	赤花・仏花						石見元彦『東播磨の民俗　加古郡石守村の生活誌』神戸新聞出版センター　1984
52	西脇市	西脇市旧黒田庄町大門	花祭り	墓				団子・七色のお供え・花（仏壇）	高花	ウツギ・シキミ・ヤマツツジ	赤花・仏花	花	○			釈迦	『黒田庄「ふれあい会」十二名『思い出でつづる　黒田庄民俗史』黒田庄「ふれあい会」 1999
53		西脇市旧黒田庄町福地	花まつり	光明寺	新仏			同に花／茶／飯／七色のおひたし（仏壇）	高花	ウツギ・シキミ・シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花・仏花	水					『黒田庄「ふれあい会」十二名『思い出でつづる　黒田庄民俗史』黒田庄「ふれあい会」 1999
54		西脇市旧黒田庄町門柳		光明寺→權那寺／家	新仏					ウツギ・ヤマツツジ	赤花		○			仏様	『黒田庄「ふれあい会」十二名『思い出でつづる　黒田庄民俗史』黒田庄「ふれあい会」 1999
55		三木市口吉川町穂波	花はじめ	光明寺	新仏				テントバナ	キツネバナ・シャクナゲ・モチツツジ				マムシ			『兵庫民俗・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971

56		三木市旧吉川町吉川								キツネバナ・シャクナゲ・モチツツジ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
57		高砂市		一乗寺	新仏(三年間)					シャクナゲ・ツツジ		同じ花／甘茶・アラレ・団子				釈迦	『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
58		小野市下来住町	花参り	浄土寺／光明寺(高い山の寺)	新仏					シキミ・シャクナゲ・ツゲ・ツツジ	仏花	同じ花				仏	『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
59		加西市北条町横尾		一乗寺	新仏				天道花								『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
60		加西市馬渡谷町	花ハジメ	一乗寺	新仏			七色の供物・ボタモチ(仏壇)		シャクナゲ・ツツジ							『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
61		加西市豊倉町								クチナシ・シャクナゲ・ツツジ				マムシ・蛇			『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
62		加西市下道山道町	ハナオリ・ハナハジメ	千山寺	新仏					ウツギ・クジ・ツツジ			○				『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
63		加西市北条町西高室								ツツジ		団子					『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
64		加西市下万願寺町	お釈迦さんの日							シキミ・ツツジ・カニバナ(ヤマツツジ？)	赤花・仏花		○				『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
65		加西市別所町		檀那寺													『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
66		加西市坂本町	ハナハジメ	一乗寺	新仏			ヤマツツジ(仏壇)	ハナ	ヒサカキ・ヤマツツジ	赤花・仏花						K3さん 男性 1948年生 坂本町 上小間き書き
67		加西市坂本町		一乗寺	新仏				テントバナ	シャクナゲ・ツツジ					仏さん		『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
68		加西市坂本町	花祭・ハナハジメ・卯月八日	一乗寺／墓	新仏	○				ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
69		加西市田谷町	施餓鬼・花供養	檀那寺	新仏・先祖		先祖										『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
70		加西市殿原町	水塔婆・施餓鬼	久学寺	新仏												『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
71		加西市坂裏	花ハジメ・塔婆納め	光明寺	新仏	○											『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
72		加西市上芥田町	花はじめ	光明寺			○										『加西市史第六巻本編民俗』加西市史編さん委員会 2007
73		加西市北条町南町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
74		加西市北条町駅前		一乗寺	新仏					ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
75		加西市北条町田町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
76		加西市北条町御旅町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
77		加西市北条町御幸町		酒見寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
78		加西市北条町宮町		一乗寺／檀那寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
79		加西市北条町小谷		一乗寺(新仏)／陽松寺	新仏					ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
80		加西市北条町横尾		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
81		加西市北条町古坂		山上の寺	新仏					ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
82		加西市北条町東高室		一乗寺(新仏)／西福寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
83		加西市北条町東南		一乗寺／光明寺	新仏					ツツジ				マムシ			『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
84		加西市北条町西南		一乗寺・高い山の寺(新仏)／阿弥陀寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
85		加西市西谷東町	ハナハジメ	一乗寺・高いところの寺						ヤマツツジ	赤花						『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
86		加西市窪田町		一乗寺(新仏)／大日寺	新仏					ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
87		加西市吸谷町	ハナノ日	一乗寺	新仏					ツツジ				ムカデ・虫			『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
88		加西市市村町	花供養	高い山の寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
89		加西市福住東町		一乗寺	新仏					ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
90		加西市福住西町	サカムケ			○											『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
91		加西市福住西町	ハツハナ・卯月八日	妙厳寺	新仏					シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花			ムカデ			『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
92		加西市山下西町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
93		加西市山下中町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
94		加西市山下東町		一乗寺	新仏					ツツジ・フジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
95		加西市東横田町		一乗寺						ヤマツツジ	赤花						『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
96		加西市鎮岩町	ハナハジメ・卯月八日	一乗寺	新仏					シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花						『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
97		加西市東長町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
98		加西市東剣坂町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
99		加西市中山町	接待														『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
100	播磨	加西市大柳町	接待														『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
101		加西市王子町		家	新仏					シャクナゲ・ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
102		加西市戸田井町	ハナハジメ・卯月八日	一乗寺／多聞寺	新仏					シャクナゲ・ツツジ			○				『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
103		加西市両月町		一乗寺／多聞寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
104		加西市大村町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
105		加西市段下町	ハナハジメ	一乗寺一檀那寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
106		加西市上野田町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
107		加西市東野田町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
108		加西市東笠原町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
109		加西市西笠原町	ハナハジメ・卯月八日	墓						ヒサカキ・ヤマツツジ	赤花・仏花						『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
110		加西市三口町	ハナハジメ	一乗寺	新仏					ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
111		加西市千ノ沢町	花ハジメ	一乗寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007

112	加西市新生町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
113	加西市中野町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
114	加西市田原町		寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
115	加西市網引町		寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
116	加西市南網引町		寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
117	加西市栄町	ハナハジメ	一乗寺／光明寺→檀那寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
118	加西市上宮木町	ハナハジメ・卯月八日	一乗寺／光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
119	加西市下宮木村町		百代寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
120	加西市下宮木町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
121	加西市鵜野上町		一乗寺／光明寺／墓	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
122	加西市鵜野南町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
123	加西市別府中町	ハナハジメ	光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
124	加西市常吉町		一乗寺／光明寺／墓	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
125	加西市朝妻町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
126	加西市玉野町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
127	加西市青野原町		光明寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
128	加西市野上町		光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
129	加西市馬渡谷町	ハナハジメ		新仏			七色の供物／ボタモチ		シャクナゲ・ツツジ							『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
130	加西市鍛冶屋町	ハナハジメ	光明寺／寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
131	加西市油谷町		光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
132	加西市国正町		奥山寺・光明寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
133	加西市下印南町		光明寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
134	加西市青野町		光明寺／清水寺／山のお寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
135	加西市上若井町	ハナマイリ・卯月八日	光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
136	加西市下若井町	ハナハジメ・卯月八日	一乗寺／清水寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
137	加西市大内町		楽法寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
138	加西市下道山町	ハナハジメ・ハナオリ	千山寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
139	加西市上万願寺町		一乗寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
140	加西市鴨谷町	ハナハジメ・卯月八日	一乗寺／光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
141	加西市笹倉町		光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
142	加西市越水町		檀那寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
143	加西市佐谷町	ハナマイリ・卯月八日	久学寺／光明寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
144	加西市上野町	ハナハジメ・卯月八日	久学寺	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
145	加西市広原町	ハナハジメ	久学寺／薬師	新仏												『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
146	加西市下芥田町	ハナハジメ	久学寺													『加西市史』第六巻本編民俗 加西市 2007
147	宍粟市旧山崎町段							立て花	ツツジ・フジなど季節の花							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
148	宍粟市旧山崎上ノ								ツツジ・フジ・ヤマブキ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
149	宍粟市旧波賀町原	花はじめ／花節供	墓	新仏					フジ・ヤマツツジ・ヤマブキ	赤花	木・米		捜索		釈迦／マムシ	『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
150	宍粟市旧一宮町公文	花はじめ	寺／墓	新仏					七種の花(シャクナゲ・ツツジ・フジ・レンゲ・ヤマブキ)		草履・花					『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
151	宍粟市旧千草町西河内								ウツギ・シャクナゲ・ツツジ・フジ・ヤマブキ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
152	宍粟市旧千種町	ウズキヨオカ(アマチャノヒ)							ウツギ・ツツジ・フジ・ヤマブキ				捜索			『千種 西播奥地民俗資料緊急調査報告』兵庫県教育委員会 1972
153	加東郡内		光明寺						シャクナゲ・ツツジ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
154	多可町旧八千代町野間	花はじめ	光明寺	新仏					シキミ・シャクナゲ・ツツジ	仏花	同じ花	○			コンニチさん／ムさん	『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
155	神崎郡								シャクナゲ・ツツジ		同じ花				釈迦	『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
156	神崎郡神河町長谷	花詣り	光明寺→檀那寺	新仏	○		同じ花／七種(仏壇)		シキミ・シャクナゲ・ツツジ	仏花	花	湯茶				坂本花咲『長谷習俗誌』(非売品) 1981
157	佐用町	ウヅキヨウカ、お釈迦さんの日							ツツジ・フジ				雷			『佐用町史 中巻』佐用町史編さん委員会 1980
158	佐用町奥海						オハギ(仏壇)		ツツジ・フジ・ヤマブキ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
159	豊岡市旧竹野町								シャクナゲ・ショウブ				花湯			『竹野町史民俗・文化財・資料編』竹野町史編集委員会 1991
160	豊岡市旧竹野町床瀬・門谷							八日花(天道花)	ウツギ・シャクナゲ・ヤマツツジ	赤花	団子					『竹野町史民俗・文化財・資料編』竹野町史編集委員会 1991
161	豊岡市旧竹野町床瀬								シャクナゲ・ショウブ							昭和三十八年度『民俗採訪』
162	豊岡市旧竹野町下村								ウツギ・オオテマリ・ホタ・ヤマツツジ・ヤマブキ	赤花						昭和三十八年度『民俗採訪』
163	豊岡市旧竹野町鍬山								テマリバナ		草履・新茶・水		花湯			昭和三十八年度『民俗採訪』
164	豊岡市旧竹野町桑野本								シャクナゲ							昭和三十八年度『民俗採訪』
165	豊岡市旧竹野町門谷								ハナ				花湯			昭和三十八年度『民俗採訪』
166	豊岡市旧竹野町長井								シャクナゲ・ツツジ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
167	豊岡市旧竹野町								ウツギ							『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』兵庫県教育委員会 1974

168	但馬	豊岡市日撫								シャクナゲ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
169	但馬	豊岡市田結	成人参り														『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』兵庫県教育委員会 1974
170	但馬	香美町旧美方町								タニウツギ・フジ			○	花湯			『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
171	但馬	香美町旧美方町	卯月八日					山の花(仏壇)		ウツギ・シャクナゲ・フジ・ヤマブキ			○	花湯			『小代 小代地区民俗資料緊急調査報告書』兵庫県教育委員会 1970
172	但馬	香美町余部・御崎	ハナハジメ	墓				墓子(仏壇)									『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』兵庫県教育委員会 1974
173	但馬	養父市旧養父町粟賀・十二所	卯月八日、お釈迦さんの日							ツツジ・フジ・ホオ							『養父町史』第三巻(民俗編) 養父町 1994
174	但馬	養父市旧養父町唐川	卯月八日					花(仏壇)		ツツジ・フジ・ホオ		藤香・団子					『養父町史』第三巻(民俗編) 養父町 1994
175	但馬	養父市旧八鹿町石淵・柳色・砂見	花はじめ	家・墓				テントバナ(墓)	テントバナ	シャクナゲ・ツツジ		オハボ・藤香・食米					『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
176	但馬	朝来市旧生野町上生野	卯月8日					団子／七色のオカズ	タカバナ	5種か7種(クツツジ・シャクナゲ・ツツジ・フジ・ホオ・ヤマブキ)(クツツジ・シキミ・シャクナゲ・ツツジ・フジ・ホオ・ヤマブキ)	仏花	シャクナゲ・ツツジ・ホオ／団子・水	○	蛇・マムシ		釈迦	『上生野 生野ダム水没地区民俗資料緊急調査報告書』兵庫県教育委員会 1969
177	但馬	朝来市旧生野町黒川						七種の野菜(仏壇)	仏さんにあげる花							仏さん	『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
178	但馬	朝来市旧朝来町								ツツジ・フジ・ホオ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
179	但馬	朝来市旧朝来町多々良木	ウヅキヨウカ							シキミ・ツツジ・フジ・ホオ・ヤマブキ	仏花	米／甘茶・藤香	○	マムシ			『多々良木』朝来町教育委員会 1972
180	淡路	洲本市中津川								ウツギ・ツツジ							『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971
181	淡路	洲本市旧五色町	オシャカハン							ツツジ		草履		捜索			『五色町史』五色町史編纂委員会 1986
182	淡路	南あわじ市旧西淡町阿那賀						花(墓)		○		団子・水		虫			『兵庫探検・民俗編』神戸新聞社学芸部兵庫探検民俗編取材班 1971